

## 支部 REPORT 川崎・宮前支部

宮前支部長 小沼 謙一郎 (S59 年卒)

宮前区は昭和 57 年 7 月 1 日、高津区からの分区により誕生し、区名は一般公募で「宮前区」に決まりました。歴史的には、この地域の明治時代の字名と村名に由来しているとのこと。明治 22 年、町村制実施によって宮前(みやさき)村と向丘村ができました。宮前区の村名は、村のほぼ中央に位置した女神権現社(現馬絹神社)の前に梶ヶ谷にかけて「馬絹村字宮ノ前(みやのまえ)」の字名があり、この付近に村役場が設置されたことから名付けられました。現在の区名は、この宮前の村名を継承し、呼称は、馬絹村字宮ノ前(みやのまえ)から「みやまえ」としたものだそうです。宮前区は、多摩丘陵に抱かれ、「東高根遺跡」や「馬絹古墳」など文化的遺産の多いところです。なかでも、奈良時代に建てられた「影向寺」からは、今でも当時の文化が伝わってきます。

昭和 41(1966)年、溝の口～長津田間に田園都市線が開通、昭和 43(1968)年、東名高速道路・東名川崎インターチェンジの開通・開設などにより、急激な人口増と都市化が進みました。現在世帯数は、97,703 世帯(川崎市 715,185 世帯)です。人口は、229,285 人(川崎市 1,501,930 人)で、面積は 18,60 平方キロ、人口密度 12,327 人/平方キロ(川崎市 10,405 人/平方キロ)です。都市化が進んではいますが、森林や竹林そして畑などもあり、自然豊かな地域も多く残っています。

宮前区のイニシャル「M」をハートの形に

デザインし、ハートのブルーの色は知性を、黒い楕円は「力強い大地」を表現し、区民の和と英知の結集により未来へ飛躍する姿をイメージしています。区の木「サクラ」は、区内に広く分布し、駅前や公園など名所も多く、また、宮崎台駅周辺や平瀬川流域などでは、桜を基にした「まちづくり」も行われています。区の花「コスモス」は、明るく可憐で繊細なイメージと、コスモスという言葉が持つ宇宙、世界的、国際的という意味が、若々しく未来を感じさせる宮前区のイメージに合うことなどから選ばれたそうです。

宮前支部には、小学校 17 校、中学校 8 校、宮前区役所関係などの会員が所属しています。現職会員 45 名、OB 会員 46 名の計 91 名で構成されています。支部では年に 1 回、支部総会を例年秋が深まった頃に開催しています。宮前平駅の近辺を会場として毎回 10 名前後の会員が集まって、支部の活動や会計報告などが報告され、計画などが話し合われています。その後の懇親会では、各会員の近況が報告され、現職と OB の交流を通して楽しい有意義な時間を過ごしています。しかしながら、参加状況としては現職が少なく、もっと学校現場の話で場が盛り上がり欲しい面もあります。今後は、一人でも多くの会員に支部総会に参加していただき、宮前支部の活動がさらに活発になることを望んでいます。